

# 第2回インダストリアル・グローバールユニオン世界大会概要

金属労協／JCM国際局部長 高城 牧子

第2回世界大会テーマは「未来への闘い／Fighting forward / A Luta Continua」

第2回インダストリアル・グローバールユニオン世界大会は、2016年10月4-7日ブラジル・リオデジャネイロにおいて、99カ国324加盟組織から1269名が参加のもと開催された。女性参加者は362名、全体の28.5%で、残念ながら規約で定められた女性参画30%には達する事が出来なかった。

日本からは金属労協／JCM代表团63名（内女性19名）、インダストリアルJAF代表团41名（内女性7名）、UAゼンセン代表团3名（内女性3名）の合計107名の代表が参加した。

第2回インダストリアル世界大会開会式は10月4日午後6時から大会会場で行われた。開会式ではブラジルらしいサンバや現代ラテン・アフリカ風のストリートダンス、ドラム演奏などが披露され、会場を盛り上げた。



世界大会オープニングセレモニー

開会式では、メディアによる汚職スキャンダルに巻き込まれた渦中のブラジル金属労組出身のルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバ元ブラジル大統領が力強い演説を行い、大会代議員から大喝采を受けた。大会会場入り口にはルーラ氏支援を表明するサインボードが設置され、大会代議員がメッセージと共に署名を行い、後日ルーラ氏の元

に届けられる事となった。

大会開会式ではルーラ氏の他、地元CNMUCUTのパウロ・カイレス、CNTM「労働組合の力」のミゲル・トレスも歓迎挨拶を行った。両氏は権力を持つ富裕層による悪質な攻撃に対抗するには労働組合の活動・団結が重要だと訴えた。またブラジルに变革をもたらしてくれたルーラ氏が現在さらされている攻撃から彼を守る必要があると訴えた。大会代議員全員が団結すればグローバールな組合運動を強化して発展させ、資本に対抗することができ、すべての労働者の団結を示さなければならぬと挨拶し、大会代議員は立ち上がり、拳を突き上げて連帯を表明した。

また世界大会冒頭には、過去4年間に亡くなった労働活動家の写真が上映され、参加者全員で黙祷を捧げた。

2014年5月に逝去された金属労協(IMF-JC)初代事務局長・IMF書記次長・IMF東南アジア地域事務所長を務められた瀬戸一郎氏の写真も写し出された。

10月5日には、ガイ・ライダーILO事務局長、シャラン・バロウITU書記長が基調講演を行った。

世界大会の会議運営は本部役員席が演壇中央に設けられるような従来型の設営とは異なり、演壇一面にディスプレイパネルが設置され、ビデオメッセージや音響によるアレンジが多用された。またウェブサイトでは大会の様子をライブ中継され、twitter、facebook、instagram等も用いて情報発信が行われた。本部書記局報告も従来型の担当役員による口頭報告では無く、加盟組織代表による寸劇で主な活動成果を表現する手法が取られた。

## ベルトホルト・フーパー会長 世界大会 開会挨拶概要



2012年のインダストリアル結成大会以降、世界の政治状況は好転していません。多くの国や地域は、紛争状態や軍事的暴力に支配され、あからさまかつ体系的に人権が侵害され、貧困、搾取、汚職、無法状態が蔓延しています。先行きの見えない中、多くの人々が避難せざるを得ず、国連によるとその数は6000万人を超えるとされています。

労働組合は、その黎明期から弱者、搾取される人々、抑圧される人々の側にありました。今日、我々の共感と連帯感、より良い生活のための唯一の希望を避難に見出す人々に向けられます。ここにいる全員が、平和と社会正義なくして、明るい未来はないということを確認しています。人間は世界中で、自由、公正、民主主義、法の支配、満足できる生活に対する権利を持っています。公正な世界秩序のもとでのみ、テロリストや人種差別主義者の温床が失われ、人間は恒常的に平和に暮らせるのです。労働組合は、昨日も今日も明日も、そのために闘います。それは、これまででも、これからも変わらぬ我々の信念であり、そのために闘うのです。

本大会では、我々の原点である労働組合のテーマと課題に集中しなければなりません。我々は共に全力を尽くさなければなりません。製造業の労働組合が、各国の産業における安定した良い職場、団結の自由、労働協約のために闘い、グローバルに展開するコンツェルンや企業において被用者の利益を効果的に代表するため、自由な労働組合の結成を目指して世界中で共に闘う、というメッセージが重要です。我々は連帯する共同体であり、力を合わせ、お互いに支え合う友人であり、誰も見捨てることはないというメッセージを発信しなければなりません。鉱山、化学とエネルギー、繊維と衣料、金属を問わず、安定労働が不安定か、正規雇用が非正規かは関係ありません。

「Fighting Forward・未来への闘い」という大会テーマには相応の意味があります。我々のビジョンは、生き生きとした労働が、資本と少なくとも同等に扱われる世界です。例えば今日、自由貿易協定によって、投資家の権利は保護されていますが、被用者と社会の普遍的権利は守られておらず、保護の対象と見なされていません。自由な労働組合にとつて、この状況は決して受け入れられるものではありません。まさに、「Fighting Forward・未来への闘い」です。

グローバル化によって、我々の結びつきは密接になりました。労働組合の活動・政策は、もはや各工場、産業、国といった枠にとどまるものではありません。「世界人権宣言」の第一条は、国連とその価値基準の根幹を成すもので、その題は「自由、平等、博愛」です。労働の領域でこれらの価値観を実現することが、国際的労働組合運動の役割であり、目標です。本大会で選出される執行部は、そのために尽力しなければなりません。

我々の活動は、新アクション・プランがベースとなります。5つの活動戦略に従って策定されたもので、本大会で採択されます。結成大会のアクション・プランに基づき、この数年間の活動を絞り込んだ結果、多くの分野において進歩が見られました。例えばバングラデシュの協定、不安定雇用に対抗するキャンペーン、グローバル枠

組み協定(GFA)における改善などです。しかし、労働組合の結成や活動を阻害しようとする企業も増えています。我々は、企業が紙の上で基本的被用者権利をうたいながら、実際には他の政策を実践するという状況を受け入れることはできません。被用者が企業の責任を問うことのできる、より強い拘束力と法律的規定が必要です。

デジタル化やインダストリー 4.0といった急激なテクノロジーの変化も、あらゆる分野において新たな課題を世界中で生んでいます。また、より多くの若い世代と女性を組合員として獲得し、政策策定と決定に参加してもらうことが緊急の課題です。インダストリアルでは、いまだに女性は少数派なので、本大会で執行部と全機関における女性代表の割合を増やすことを目標にした規約改正が予定されています。野心的な目標を達成するためには、目標を設定しないことには始まりません。

これら全てのテーマにおいて、インダストリアルのトップには、政治的ビジョンを持ち、それぞれの国において、国を超えた協力により、労働組合活動で成果を上げることが求められています。執行部ポスト候補者の皆さんは、それぞれ異なる能力や経験値を持っています。我々は、皆さんがそれらの力を束ねて、真のチームワークを発展させ、全員に利益をもたらすことを期待しています。

新たに選出される執行委員として各地域の委任を受けた皆さんには、活発な働きによって、加盟労働組合に情報を伝えて活動に巻き込み、各地域における活動をさらに発展させることを願っています。インダストリアルは、ジュネーブの本部や、地域事務所からのみで成り立っているものではありません。我々全員がインダストリアルなのです。

2012年のインダストリアルの組織統合は有意義なものでした。それが簡単な道のりではないことは、当初から明らかでした。ですが、私自身は振り返ってみて、この4年間の第一期は非常に良かったと思っています。多くの難題があったものの、活動は進展しました。我々は自信を持って先へ進むことができます。財政面でも安定しており、明日の規約改正によって、新たな統一加盟費制度が採択されます。

我々は、被用者と労働組合の権利、労働条件改善のために世界中で闘う連帯組織であることを忘れてはなりません。我々は、加盟費という形で預金をして、それを活動という形の利子や福利で増やす銀行ではないのです。そして強い者が弱い者を守ると我々の基本原則は、この先も有効なのです。今後さらに、産業分野の区分から離れ、連帯する製造業とその関連するサービス業の労働組合共同体として認識されることが重要です。

新執行部は、それぞれの出身産業分野から独立し、世界中の素材と製造業全ての労働組合を統率します。出身地域と産業分野は関係ありません。一致団結は我々を強くします。何かを動かすためには、力を合わせなければなりません。逆の見方をすれば、強いインダストリアルのためには、一人一人が責任を担う必要があるということです。

今世界大会において、実り多い、未来に向けた議論が交わされ、決断がくだされることを願っています。



インダストリアル世界大会全景

2012年6月デンマーク・コペンハーゲンでIMF(国際金属労連)、CEM(国際化学エネルギー鉱山一般労連)、ITGLWF(国際繊維被服皮革労働組合同盟)の3GUF(国際産業別組織)が、世界140カ国、5000万人の製造業・エネルギー・鉱業労働者を結集してインダストリアル・グローバルユニオンを結成して4年が経過した。

結成大会の2012年からの4年間は、新組織への移行期間と位置付けられ、結成大会で決定が先送りされた執行委員定数、新加盟費、女性参画の推進等の規約改正について、執行委員会、規約委員会等で議論を重ねてき

た。また、結成大会で採択したアクション・プランにもとづき、2016年までの活動の5つの目標と16の基本戦略を策定し、活動を推進してきた。

世界大会の主な議題は、これら規約改正と2016-2020年のアクション・プラン採択、そして結成大会で選出された、ベルトホルト・フーバー会長とユルキ・ライナ書記長が第2回世界大会での退任を表明したため、新たなリーダーシップチームの選出が議論の焦点となり、世界大会開会直前まで加盟組織間で活発な議論・意見調整が行われた。

第2回世界大会議題は下記の通り。

- 1 開会
- 2 議題の承認
- 3 議事規則の承認
- 4 資格審査委員会委員の確認
- 5 決議委員会委員の確認
- 6 投票立会人の選出
- 7 資格審査委員会報告
- 8 書記局報告
- 9 2012-2015年財政報告
- 10 会計監査および外部監査報告
- 11 規約改正
- 12 会長、副会長、書記長、書記次長の選出
- 13 内部監査の選出
- 14 執行委員会正・代理委員の選出
- 15 2016-2020年アクション・プランの承認
- 16 決議
- 17 閉会

## 世界大会概要

### ルーラ元ブラジル大統領 開会挨拶概要



ブラジル金属労組出身のルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバ元ブラジル大統領が招かれ演説を行った。貧困家庭に生まれたルーラは元金属労働者で、ブラジル大統領に登り詰めた。労働組合員として一連のストライキを主導し、軍事独裁の基礎を揺るがした。ルーラは右翼の攻撃やメディアによる制裁にさらされてきた。政敵が法律制度を悪用しようとし、エリート富裕層に支配されたメディアがブラジルの進歩を逆戻りさせようとしている。大会参加者はルーラが大統領時代に築いた業績を称えた。

ルーラは演説の中で自身の労働組合時代の経験、1980年代にストを組織したことを理由に軍事政権によって活動を禁止されたことに触れ、このような闘いが現在も続いていると述べた。

しかし、ルーラは「闘いは続くが、もう一つの世界を築き上げることは可能だ」と述べた。「労働者を解決策の決定プロセスに参加させれば、世界を動かしているエコノミストや博士号取得者の多くよりも、はるかに賢明な決定を下してくれと思う」「私たちはブラジルで真の進歩を成し遂げ、良質な雇用を生み出し、強力で持続可能な経済を確立しようとしていた。だが右翼によるクーデターで、そのすべてが元の本阿弥になる恐れがある。まだ私たちに残されている民主的な余地を利用する必要がある。すでに勝ち取った権利を守るために闘い、別のやり方があることを世界中の人々に示す必要がある」と演説し、大会代議員から総立ちの喝采を受けた。

新たなリーダーシップ／  
執行委員の選出

2012年からの4年間、インダストリアル・グローバルユニオンの活動を確立したベルトホルト・フーバー会長、ユルキ・ライナ書記長の後任のリーダーシップチームを選出する具体的な議論は、2015年12月の執行委員会からスタートした。会長・副会長・書記長・書記次長・会計監査のノミネーションを公募すると同時に、規約改正の議論も同時進行し、各役職の任務、人数、女性参画についても検討が行われた。

会長へのノミネーションは、イェルク・



新しく選出された会長と副会長（右から3人目が相原副会長）

ホフマンIGメタル会長1名だったが、書記長、書記次長については定員を上回る届け出があった。副会長はこれまで旧3GUF代表の3名が選出されていたが、地域活動重視の観点から、規約を改正し、各地域の代表6名が副会長に選出されることになった。書記長候補は最終的に、ブラジル全国金属総連合(CNM/CUT)出身のヴァルター・サンチェス、現インダストリアル書記次長でトルコ出身のケマル・ウズカン、ノルウェー合同産業労組出身のアトレ・ホイエの3名に絞られたが、大会で選挙を実施して混乱を招くことを避けるため、世界大会開催直前まで水面下での協議が続けられ、最終的に大会前日の執行委員会ですアルター・サンチェスが書記長候補に決まった。書記次長についても、複数候補があり、大会直前まで協議が行われた結果、世界大会へ3名の候補者を提案する事となり、左記のリーダーシップチームが満場一致で選出された。

■会長

イェルク・ホフマン(ドイツ)

■副会長

●イツサ・アレム(サハラ以南アフリカ地域/ナイジェリア)

●キヤロル・ランドリー(女性・北米地域/アメリカ)

●タハール・ベルベリ(中東・北部アフリカ地域/チュニジア)

●相原康伸(アジア太平洋地域/日本)

●ラウル・マチユー(ラテンアメリカ・カリブ海地域/アルゼンチン)

●アンデルス・フェルベ(IFメタル・スウェーデン(2016-2018)/アグスティン・マートティン(CCOO、スペイン(2018-2020)(欧州地域)

●書記長

ヴァルター・サンチェス(ブラジル)

●書記次長

アトレ・ホイエ(ノルウェー)

ジェニー・ホルドクロフト(女性・オーストラリア)

ケマル・ウズカン(トルコ)

第2回世界大会では、今後更に地域の活動を重視していく観点から、左記の地域共同議長(男女)も選出した。

●ヨーロッパ

マレー・アンチエバ(SIER, マケドニア)

アグスティン・マートティン(CCOO、スペイン(2016-2018)/

アンデルス・フェルベ(IFメタル、スウェーデン(2018-2020))

●北米

ロバート・マルティネス(IAM、

アメリカ)

ラナ・ペイン(ユニフォー)

●中東・北部アフリカ

ハシユメヤ・アルサーダウィ(GUEWT、イラク)

アブデルマジド・マトウアル(FNTE/UMT、モロッコ)

●サハラ以南アフリカ

アンジェリナ・チタンボ(ZEWA、ジンバブエ)

ピート・マトサ(NUM、南アフリカ)

●アジア太平洋

相原 康伸(JCM、日本)

ミシエル・オニール(TCFU、オーストラリア)

●ラテンアメリカ・カリブ海

ルシネイデ・ソアレス・バルジョン(CNQ/CUT、ブラジル)

ナポレオン・ゴメス・ウルティア(SNTMMSRM、メキシコ)

また、規約改正で最終的に執行委員定数は60名となり、各地域を代表する執行委員も新たに選出された。10月4日に開催したアジア太平洋地域大会では、旧3GUFと地域のバランスを考慮して12名の執行委員と委員代理を選出、その中から前述の地域共同代表を選出した。(アジア太平洋地域執行委員リスト別表参照) 日本からは、相原康伸(JCM議長)、岸本薫(電力総連

インダストリアル・グローバルユニオン  
アジア太平洋地域選出執行委員リスト (2016-2020)

No	正委員	代理委員
1	スコット・マクダイン (2016-2018)	アン・ドンネラン (女性) (2016-2018)
	旧 IMF	旧 IMF
	太平洋・オーストラリア・AWU	太平洋・オーストラリア・AMWU
	アン・ドンネラン (女性) (2019-2020)	スコット・マクダイン (2019-2020)
2	旧 IMF	旧 IMF
	太平洋・オーストラリア・AMWU	太平洋・オーストラリア・AWU
	トニー・マヘ	ロバート・レイド
	旧 ICEM	旧 ICEM
3	太平洋・オーストラリア・CFMEU	太平洋・ニュージーランド・ファーストユニオン
	エヌン・ヤニ・スリヤニ・ルクマン (女性)	ブラコブ・パリモン
	旧 ICEM	旧 ICEM
	東南アジア・インドネシア・KEP	東南アジア・タイ・EGAT-LU
4	サンジーヴァ・レディ (2016-2018)	S・Q・ザマ (2016-2018)
	旧 IMF	旧 IMF
	南アジア・インド・INMF-INTUC	南アジア・インド・INMWF-INTUC
	サンジャイ・ヴダヴァカール (2019-2020)	ラジェンドラ・プラサド・シンハ (2019-2020)
5	旧 IMF	旧 IMF
	南アジア・インド・SMEFI-HMS	南アジア・インド・SMEFI-HMS
	アントン・マーカス	ナズマ・アクタール (女性)
	旧 ITGLWF	旧 ITGLWF
6	南アジア・スリランカ・FTZGSEU	南アジア・バングラデシュ・SGSF
	ワティ・アンワル (女性)	プリハナニ・ブナディ (女性)
	旧 IMF	旧 IMF
	東南アジア・インドネシア・FSPMI	東南アジア・インドネシア・FSPMI
7	ミシェル・オニール (女性)	ダルリナ・ルンバン・トルアン (女性)
	旧 ITGLWF	旧 ITGLWF
	太平洋・オーストラリア・TCFU	東南アジア・インドネシア・SPN
	島田尚信	エヴァ・アルコス (女性)
8	旧 ITGLWF	旧 ITGLWF
	東アジア・日本・UAゼンセン	東南アジア・フィリピン・ALU
	ギエム・トゥイ・ラン (女性)	カルティケヤン・クリシュナムルティ
	旧 ICEM	旧 ICEM
9	東南アジア・ベトナム・VUPG	東南アジア・シンガポール・UWPI
	相原康伸	浅沼弘一
	旧 IMF	旧 IMF
	東アジア・日本・JCM	東アジア・日本・JCM
10	キム・サン・グ (2016-2018)	キム・マン・ジェ (2016-2018)
	旧 IMF	旧 IMF
	東アジア・韓国・KMWU	東アジア・韓国・FKMTU
	キム・マン・ジェ (2019-2020)	キム・サン・グ (2019-2020)
11	旧 IMF	旧 IMF
	東アジア・韓国・FKMTU	東アジア・韓国・KMWU
	岸本 薫	莊 爵 安 (チュアン・チュエ・アン)
	旧 ICEM	旧 ICEM
12	東アジア・日本・電力総連	東アジア・台湾・TPLU

会長)、島田尚信(UAゼンセン副会長)の3名が執行委員に、浅沼弘一(JCM事務局長)が代理委員に選出された。さらに、日本からは会計監査にUAゼンセンの郷野晶子副会長が選出された。

**規約改正に関する議論と  
決定事項**

世界大会前日の10月3日に開催された執行委員会で、規約改正最終案につ

いて逐条ごとに挙手で採択が行われた。執行委員会のもとに設置された規約委員会の議論で最後まで合意の得られなかった女性参画に関する条項に関して、女性委員会は女性参画40%に拘束力を

持たせるとの意見を最後まで主張したが、執行委員会の議論の結果、40%は2020年までに達成する目標値とする事で合意が得られ、世界大会へ提案する規約改正案が一本化された。

世界大会ではフォーバー会長が規約改正には3分の2の合意が必要であることとふれ、逐条ごとに確認し、女性参画関連の条約は別途審議すると説明した。さらに、規約改正案を作成した規約委員会の努力に感謝の意を表した。

規約委員会座長のホルスト・ムンドI Gメタル国際局長が規約改正案の要点を説明し、新加盟費、副会長、執行委員定数、女性参画等、全ての改正案にコンセンサスが得られている事を報告した。その後、逐条ごとに挙手による採択を行い、全ての規約改正案が承認された。主な改正点は左記の通り。

- ・インダストリアル・ユニオンの意思決定機関のあらゆるレベルにおける女性の平等な権利とより強力な代表制に向けた作業の一環として、40%の代表制の目標を導入する。
- ・基本年次加盟費を1.28スイスフランとする。2020年までは移行期間とする。
- ・2020年までは移行期間とする。

- ・執行委員定数を60名とする。2020年までに執行委員会が40%の女性代表性を達成する事を目標に掲げる。
- ・大会代議員の編成において代議員の少なくとも30%を女性にしなければならない。全ての加盟組合は、代表団で最低40%の女性参画を達成するために努力すべきである。
- ・各地域の執行委員会の勧告に基づいて、執行委員の中から規約に定める地域当たり1名の副会長を選出する。
- ・女性委員会を執行委員会の常設委員会とする。

て、執行委員の中から規約に定める地域当たり1名の副会長を選出する。女性委員会を執行委員会の常設委員会とする。規約に関する議論の詳細は、23ページを参照。

## 2016-2020年 アクション・プラン採択

2014年12月にチュニジアで開催した執行委員会、2016年までの5つの活動目標と16の基本戦略を左記の通り確認したが、これをもとに第2回世界大会に向けて設置されたアクション・プラン委員会、執行委員会等で、インダストリアル・ユニオンの柱となる「2016-2020年のアクション・プラン」を議論してきた。

### 2016年までの5つの目標と16の基本戦略

#### 1 全世界における組合の成長の構築

- すべての活動・産業で組織化と成長に焦点を当てる
- 強力かつ持続可能で民主的・代表的な独立労働組合の発展を支援する
- 労働者・組合間の団結を強化する
- グローバル資本への対抗
- 企業に影響を及ぼすグローバル・キャンペーンを実施する

- 世界統治機関で労働者の強力な代弁者となる
- 承認および多国籍企業とのグローバル・レベル交渉を要求する

#### 3 労働者の権利の擁護

- 労働者の権利が攻撃された場合はいつでも反対運動をする
- 標的国で生活賃金戦略を立案・実施する
- 安全で健康的な職場を生み出す
- 女性の参画とリーダーシップを強化する

#### 4 不安定雇用との闘い

- 不安定雇用に反対して加盟組織による共同行動を起こす
- 不安定雇用の利用を制限する
- 不安定労働者の労働権を確保する

#### 5 持続可能な産業関連雇用の確保

- 産業政策の立案・実施の具体的な形や目的に影響を及ぼす
- 持続可能な産業政策について加盟組織の共通見解を確立する
- 持続可能な産業開発に関する独自のビジョンを立案・実施する加盟組織の能力を強化する

#### ■不安定雇用との闘い

#### ■持続可能な産業政策の促進

議事進行は新たに選出された6名の副会長が担当し、副会長に選出された相原JCM議長は「労働者の権利の擁護」のパートの議事進行を担当した。各パートの議論の前段には、関連するビデオが上映された。また、加盟組織の代表が、関連パートの主だった活動成果、課題等について壇上で寸劇を行った。フロアからは事前に発言申請した約100名の代議員が発言を行った。世界大会で採択された。アクション・プラン詳細は、30ページを参照。

### 大会決議採択

世界大会最終日に、サブライチエーンにおける労働者の権利保護、反テロ闘争、貿易・投資協定に関する問題への対応等を盛り込んだ「政治決議」と、左記緊急決議6件が採択された。浅沼JCM事務局長は、政治決議の貿易・投資協定に対してフロアから日本の立場を主張する発言を行った。

- 韓国政府による組合弾圧との闘いを支援する決議
- 米国内ネシー州の工場における労働者の権利侵害に対し、フォルクスワーゲンに責任を求める決議

世界大会ではアクション・プランについて、左記5つのパートに分けて議論が行われた。

#### ■労働者の権利の擁護

#### ■組合の力の構築

#### ■グローバル資本への対抗

● コロンビアの和平と労働組合権に関する決議

● 豪州CUB（カールトン&ユニテッド・ブルワリーズ）社における労働者の復職を求める闘いを支援する決議

● 豪州フォード工場閉鎖による労働者への影響を非難する決議

● ブラジルにおける労働者の権利を求める闘いを支援する決議

## JCM代表団の大会発言、その他活動

フロアからは多数の発言者が積極的に議論に参画した。JCMからは、本部書記局報告に対して浅沼事務局長、地域活動の充実に関する規約改正に対



JCMから63名の代表団が参加



青年代議員によるパフォーマンス

して相原議長、女性参画に関する規約改正案に対して袈裟丸基幹労連中央執行委員、アクション・プラン案「持続可能な産業政策の促進」の項で野中電機連合委員長、工藤基幹労連委員長がそれぞれICT電機・電子部会長、造船・船舶解撤部会長の立場から発言を行った。

世界大会会期中には、インダストリアルとして初の青年イベントが開催され、各国の青年活動を報告し、情報共有が行われた。JCM青年代議員が各国の青年代議員らと、太鼓・音楽とともに大会会場へ入場し、青年に対する取り組みの重要性を訴えた。

また、大会会期中には、キャタピラ調整委員会、韓国闘争支援の集会等のサイドミーティングも開催された。

日本からの参加者（JCM代表団、インダストリアル・JAF代表団、

UAゼンセン代表団）は10月5日夜に合同夕食会を開催し旧3GUFの枠をこえて、懇親を深めることが出来た。10月6日には地元ブラジルの加盟組織が主催する歓迎夕食会も開催された。

世界大会終了後の10月7日午後開催された新リーダーシップによる

## 新旧会長・書記長挨拶概要

### ベルトホルト・フーパー会長 ユルキ・ライナ書記長挨拶

フーパー会長は、インダストリオールの仕事に誇りを持っていたと語り、新指導部の成功を祈念し、ジュネー



フーパー前会長(右側)からホフマン新会長にバトンタッチ

初の執行委員会では、今後の会議日程が確認された。次回執行委員会は2017年4月27-28日ジュネーブ開催、次々回は2017年11月9-10日開催、場所は追って調整される。世界大会決議採択の基準を満たしていなかったスリランカの労働権侵害に関する決議を執行委員会で採択した。

プの本部スタッフのこれまでの労もねぎらった。

ユルキ・ライナ書記長は本部書記局報告の中で以下の様に述べた。「我々は強力な組織機構を築き上げ、この4年間に誇りを持っている。今後も組織



ライナ書記長と本部スタッフ



就任挨拶するホフマン新会長



就任挨拶するサンチェス新書記長

化を進め、政治勢力を高めなければならぬ。我々は5000万人の労働者のファミリーだ、道のりはまだ長い。2013年4月のバンクグラデシユのラナプラザビル崩壊に際して、我々は強力な協定を締結する事が出来たが、まだ懸念事項もある。サプライチェーン、生活賃金、もっと多くのことが出来たのではないかという思いもある。同じ国の中で力を合わせればもっと多くの事が出来た。我々は約50のGFAを締結し、その内容はより拘束力のあるものになっている。いくつかのGFAには課題もある。大会ではVWの緊急決議が出される予定だ。不安定労働の

アクションもまだ継続する。女性参画も個人的にはまだ望む内容まで達していないが、前進している。男女が協力すればより良い活動が出来る。全てのレベルの活動に女性が参画する事を皆さんに約束してほしい。書記長として今日は最後の日だ。新しいリーダーシップに支援をお願いしたい。私が一番ハッピーだったのは世界の労働者と共に行動していた時だった。本当のヒーローは世界の労働者で、彼らの闘争が我々のミッションだ。目的達成の為に組織化を続け、団結して加盟組織を融合していったほしい。是非とも実現して頂きたい。そして一番寂しいことは、

本部のスタッフと別れる事だ」と述べ、壇上に、全てのスタッフを呼び、別れを惜しんだ。

### イェルク・ホフマン新会長／ ヴァルター・サンチェス新書記 長挨拶

新会長のイェルク・ホフマンと新書記長のヴァルター・サンチェスは選出後それぞれスピーチを行い抱負を語った。ホフマン新会長はインダストリオールのキャンペーン能力を更に強化したいと述べ、連帯して労働者のために戦うと挨拶した。サンチェス新書記長は、「世界がどんな問題に直面しているかが重要だ、インダストリー4.0等の技術革新がもたらす労働者への影響に対して戦略を練ることが重要、インダストリアルはNGOでは無い、労働組合である、組織化を強化して目標を達成したい。地域に活動を集中させ、全ての加盟組織と話し合いの機会を持ちたい。貿易協定に関しても我々は取りくまなければならない、かつてIMFに設置していた貿易に関する作業部会を設置したい、女性参画推進にも積極的に取り組んでいく」と抱負を述べた。また、退任するフーバ

1会長とライナ書記長、3名の副会長、書記次長にホフマン新会長から一人ずつに別れのメッセージが伝えられた。



第2回世界大会会場